



地域と生きる

おんが病院・おかがき病院だより

おんが病院・おかがき病院 統括院長 杉町圭蔵

この度、遠賀中間医師会の「おんが病院」と「おかがき病院」では合同の広報誌「地域と生きる」を発行し、地域住民の皆様方に病院の新しい情報をお届けすることになりました。

医師会では、前会長の堤成基先生の強いリーダーシップと情熱で、地元住民の生活を守るために、経営状況が極めて厳しく存亡の危機に瀕していた福岡県立遠賀病院を平成17年に医師会が引き受けて、急性期の「おんが病院」と慢性期の「おかがき病院」に分けて運営しています。移譲後、すでに9年経過しましたが、病院は次第に充実し、年々、より多くの地域住民の方々にご利用いただけるようになってまいりました。

病院の使命(Mission)は、遠賀・中間地区の住民の皆様が、安心して心豊かに生活できるような地域社会の実現に向けて、患者さんのための医療を実践することです。

そのためには、安心・安全で良質の医療を誠実に提供し、職員は同じ価値観を共有して新しい知識を常に取り入れて、患者さんと同じ目線で物事を考え、判断し、住民から信頼されることが必須です。

また、地域の医療・福祉を充実させるために、検診から在宅医療まで、無料セカンドオピニオン相談を含めて、幅広く住民の皆様のためのお役に立ちたいと考えていますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

平成26年10月



おんが病院 院長 矢田親一郎



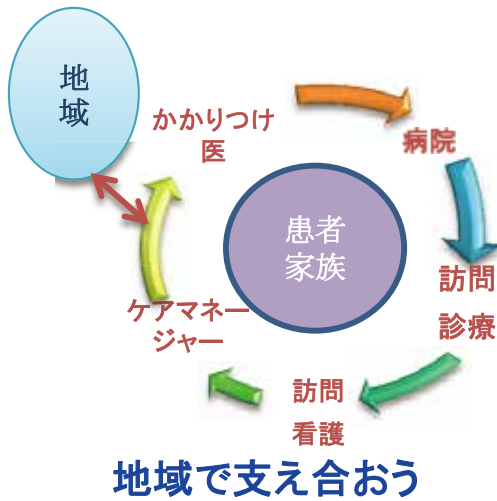
皆様いかがお過ごしでしょうか？日々、秋の気配が強くなってきている今日この頃です。この度、おかがき病院と合同で広報誌を作成し、地域の皆様にご来院の新しい情報をお届けすることになりました。当院は平成20年4月に開院し、皆様の健康を守ることを責務とし地域医療の中核として鋭意努力をしております。

当院は急性期病院としてだけでなく、来るべき超高齢化社会においての当地域の医療を担う病院として在宅医療・看護や健診などの予防医療にも力を入れております。また、多数の専門医と最先端の医療機器を揃え、皆様の目線に立って地域の皆様にご信頼され、安心できる、優しい医療・看護を目指してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

平成25年2月より、訪問診療をはじめました。
 より自分らしく生活ができるように
 ご自宅まで医師が訪問致します。
 輸液管理・緩和ケア・看取り
 地域の方々のそばにいます。



訪問医
皆川・杉町



- 自宅で、生活していくために動けないけれどどうしたら？
トイレは・ベッドは・・・
- 食事が取れません・・・
- 介護者がいないけど・・・
お風呂は
★でも、自宅で生活したい

訪問
診療・看護

住み慣れた環境での生活を一緒に考えていきます。
 平成25年訪問看護件数1655件
 おんが訪問看護師一同
 TEL093-281-2810



訪問リハビリ

ご自宅で安全な生活が送れるように、理学療法士・作業療法士が直接ご自宅へ訪問しリハビリテーションを実施します。



住宅改修
福祉用具などの
アドバイスも
いたします。

<主な内容>

屋内・外
での歩行
練習

トイレや
入浴など
の練習

ご家族への介助
方法のご指導など

在宅褥瘡対策
チーム

平成26年度診療報酬改定で
「在宅患者訪問褥瘡管理指導料」
が新設されました。

医師と看護師(所定の研修を終了した在宅褥瘡管理者)、管理栄養士

在宅へ
訪問

「地域連携室」が窓口です。

遠賀中間医師会
ケアプランセンター
(居宅介護支援事業所)
★おんが病院の中に
あります★

介護保険に関する
ご相談や代行申請

ケアプランの作成

担当: 福島・田中・宮下

ご自宅にお伺
いたします



この度は地域の皆様に遠賀中間医師会病院をご理解して頂くことを目的に、遠賀中間医師会おながき病院とおかがき病院にて合同で広報誌を発行することとなりました。紙面にて遠賀中間医師会おかがき病院の状況と安全対策、医療情報の提供、年間の行事などの活動を皆様にお伝えすることを考えております。

当院ではまず、患者さんには、心からほめる、自信を持たせる、プレッシャーを取り除く、叱らない、上手な応援をするなどの対応をして、常に笑いの絶えない関係作りをします。また、病院全体のスローガンとして、「いつも、心のこもった挨拶と、溢れる笑顔で！」を掲げ、自ら率先して実践し、明るい遠賀中間医師会おかがき病院を目指して努力していきます。

ご支援の程、よろしく申し上げます。



看護部



院内研修風景

おかがき病院看護部は、「見守りたいのは健康、いただきたいものは笑顔」をキャッチフレーズに特化した脳卒中を中心としたリハビリ看護と治療を受けながら社会復帰を目指す高齢者看護で高齢化が進む地域に認められて貢献できる『おかがき病院看護部』を目指し日々自己研鑽しています。

私たちは、病院が進むべき医療の道の実現に参画するために、安全・安心・信頼を掲げて看護の提供に努めます。特に、患者さんが、リハビリなどで獲得した能力、回復力を実生活で活かせるように24時間患者さんに寄り添いQOLの向上と社会復帰の実現を支援していきます。高齢者にやさしい病院づくりをしていきますのでどうぞよろしく申し上げます。

南病棟

南病棟は回復期リハビリテーション病棟で、脳血管疾患、大腿骨頸部骨折などの理由でADL(日常生活動作)能力の向上による寝たきりの防止と在宅復帰を目的とした集中的なリハビリテーションが必要な患者さんが入院されています。

医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士などの多職種が共同で、個々の患者さんに応じたリハビリテーションプログラムを作成し、実際に家庭に戻っても困らないで生活できるようにとADLの自立を目指したリハビリテーションを受けて頂いております。また、病棟では、発症前に近い規則正しい日常生活が送れるよう復帰の援助に力を入れています。

患者さん1人に対して看護師、セラピストが専属で担当するプライマリー制と365日切れ目のないリハビリテーションの実施体制により、患者さんが安心、充実してリハビリテーションに専念でき、1日も早く退院できることを願って支援しています。



病棟での作業療法風景



南病棟癒しの空間

北病棟

北病棟は医療療養病棟で、急性期病院での治療を終えても引き続き療養が必要な患者さんが入院されています。当病棟は、患者さんの平均年齢が82歳と高く、ADL区分・医療区分ともに2以上の方が94%と看護、介護度が極めて高いのが特徴です。

看護配置は、看護師、ケアスタッフともに20:1で、看護体制は、プライマリー制と一部機能別制を取り入れております。入院生活の中でも2回/週の入浴サービスは患者さんやご家族に喜ばれており、回復に向けてより快適な時間を過ごしていただけるよう援助しています。また、今年の診療報酬改定で在宅復帰強化病棟として稼働し始め、その人らしさを大切に患者・家族指導やケアを行うことで1人でも多くの患者さんが在宅復帰できるようにと多職種連携で支援しています。

『明るく元気のある、そして、笑顔の絶えない北病棟』をキャッチフレーズに、患者さんご家族に安心と笑顔を提供できるように努めていきたいと思っております。



多職種ミーティング



喜ばれるお風呂風景

＊リハビリテーションセンター

リハビリテーションセンターは、理学療法士21名、作業療法士19名、言語聴覚士3名、助手1名の総勢44名のスタッフが所属しています。

入院中の患者さんに、毎日休むことなく365日リハビリテーションが提供できる体制を整えています。また、病院内でのリハビリテーションだけでなく自宅や施設などを訪問し、退院後の生活環境の確認やご家族への介助方法の指導なども行っています。その他にも、バスや電車を利用した外出訓練、スーパーでの買い物や調理訓練など、退院後の生活に必要な動作の確認を行い、より安全で安心した生活が送れるよう努めています。



リハビリ風景

＊地域連携室

地域連携室では、入院の窓口として、地域医療機関からの紹介患者さんをスムーズにお受け入れするための調整や、地域医療機関の先生方と当院をつなぐ連携の窓口としての役割を担っております。

外来通院中または入院中の患者さんやご家族からの医療的、社会的、経済的問題へのご相談に応じ、問題解決への助言、解決、調整を行い、安心して療養生活が過ごせるよう支援をしております。

また、必要に応じ、退院調整を行い、地域医療機関や保健、福祉と連携を図り、在宅療養や転院に向け調整し、「病院から地域へ」という国の方針に沿い、切れ目のない医療サービスの提供を行っております。

地域連携室一丸となり頑張りますので、今後とも皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



地域連携室職員

発行日：平成26年11月4日

発行：遠賀中間医師会おんが病院・おかがき病院

編集：おんが病院・おかがき病院広報委員会